

豊富なビジュアルと資料によって、毎号1機のMSを多角的に解説!

GUNDAM

MS Bible

Mobile
Suit

ガンダム・モビルスーツ・バイブル

RX-0/フルアーマー・
ユニコーンガンダム



34

2020.1.21 / 1.28 合併号

フルアーマー・ ユニコーンガンダム

FULL ARMOR UNICORN GUNDAM

RX-0



Head Height : 19.7m / Unicorn mode
Head Height : 21.7m / Destroy mode
Weight : 45.1t
Total Weight : 76.9t
Armor Material : Gundarium Alloy
Generator Output : 3,400kW / Unicorn mode
Total Thruster Output : 185,700kg / Unicorn mode

宇宙世紀改暦から続く因縁に終止符を打つ一角獣の進化した姿



DeAGOSTINI

FULL ARMOR UNICORN GUNDAM

フルアーマー・ユニコーンガンダム

「袖付き」との戦いを前にして、彼我の戦力差を埋めるために誕生した最終決戦仕様。

装甲(アーマー)強化ではなく武装(アーマメント)強化の意味合いから、この名がつけられた。

ビーム・ガトリングガン、ハイパー・バズーカ、グレネード&ミサイル・ランチャーといった

火力も運用方法も異なる火器を多量搭載。そのためパイロットには過度の負担が掛かると思われたが、本機に備えられた「インテンション・オートマチック・システム」により、ある程度の自動照準が可能である。

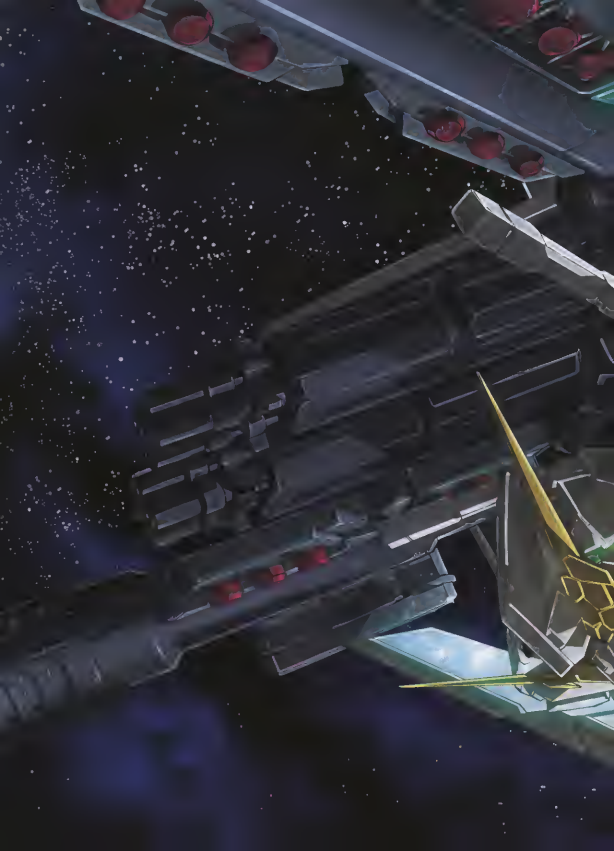


全高	19.7	21.7m
全幅	45	11
全重	76	9t
武装	ガンダムリウム合金	
出力	3,480kW	計測不能
機体重量	189,700kg	計測不能
機体長さ	22,000m	計測不能
武装	ビーム・マガナムX1 ビーム・サーベルX4 頭部60mmバルカン砲X2 ハイパーバズーカX2 ビーム・ガトリングガンX6 グレネードランチャーX2 対艦ミサイル・ランチャーX2 ハンドグレネードX8 ビーム・トランスフォーマーX2(テストロイモード) シールドX3 バナージ・リンクス	

GUNDAM MS Bible 34

CONTENTS

■ 戦場レポート		■ MS戦記	
「路」の語る場所へ	01	フルアーマー・ユニコーンガンダム 戦時の記録	16
■ MS機体解析		■ MS進化論	
機体解説	05	フルアーマー・ユニコーンガンダム 開発系譜図	18
武装解説	10	■ メカニック・ジャーナル	
■ 関連MSラインナップ		パーツ流用と共通化	22
フルアーマー・ユニコーンガンダムと関連機体	12	〈インダストリアル7〉と〈メラリナ〉	28
■ MSパイロット		■ ガンブラ ジェネレーション	
バナージ・リンクスと周辺人物	14	圧倒的情報量を誇る最終決戦仕様を再現!	34







「機動戦士ガンダムUC」episode 7「虹の彼方に」

『箱』の眠る場所へ

運用MS 地球連邦軍／ネル・アーガマ

「箱」の秘密に接近し過ぎたため連邦軍上層部からの抹殺対象となる。そのため一時的に「袖付き」と共闘するが、「箱」の所有権を巡って再度争う。



NAHEL ARGAMA
ネル・アーガマ



RGM-89D
JEGAN TYPE-D
ジェガンD型



RGM-89DEW
EWAC JEGAN
EWACジェガン



NZ-666
KSHATRIYA REPAIRED
クシャトリヤ・リペアード



RX-0
FULL ARMOR UNICORN GUNDAM
(DESTROY MODE)
フルアーマー・ユニコーンガンダム
(ダストロイモード)

各種兵器を装着した最終決戦仕様。
制空に干渉しないため、
この状態で“寛解”も可能。

VS

運用MS 地球連邦軍

連邦軍上層部と密に
たAE（アナハイム
レクトロニクス）社
マーサ・ビスト・カ
インの持命によつ
て「箱」が「箱」と
なるのを狙うとす

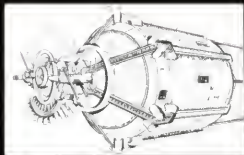
UNICORN GUNDAM 5
ユニコーンガンダム2号
アームド・アーマーの機體
“寛



地球連邦軍とジオン残党軍「袖付き」が血眼になって争奪戦を繰り返していた「ラブラスの箱」。
地球連邦政府の根幹を揺るがしかねない情報を内包するといわれた『箱』の秘匿場所がついに明らかになった。
それは、のちに「ラブラス事変」と名づけられた争乱発祥の地〈インダストリアル7〉の〈メガラニカ〉だった。
『箱』の下に急ぐバナージ・リンクスと、『箱』との接触を阻止しようとするリディ・マーセナスやアンジェロ・ザウバー。
それぞれの思惑が交錯し、〈メガラニカ〉周辺宙域で激しい攻防戦が繰り返されることになる。
その頃、連邦軍シャイアン基地では、『箱』の抹消を目論む者たちの謀略が進行しつつあった。

戦闘宙域

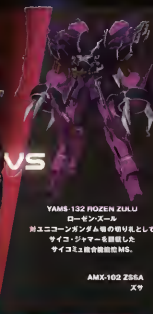
『箱』が秘匿された〈メガラニカ〉は、ビスト財団が保有するコロニービルダー。工業コロニー〈インダストリアル7〉建設に用いられる一方、内部には財団宗主サイアム・ビストの私邸やMSドックなどの施設が設けられている（ユニコーンガンダムの開発もこの地で行われた）。その正体はサイアムが機密裏に建造させた超巨大防衛戦艦であり、『箱』の存在が世界に開示されるのと時を同じくして真の姿を見た。



■コロニービルダー〈メガラニカ〉全貌



RX-0
BANISHED NORN (DESTROY MODE)
バンシー・ノルン (デストロイモード)
ニュータイプ能力の強いパイロットでも
*を可能にした。



YAMS-132 FROZEN ZULU
ローセンサー
対ユニコーンガンダム機の戦いとして
サイコ・ジャマーを搭載した
サイコメカニクス機体MS。

運用MS「袖付き」

『箱』の正統な後継者を自稱するフル・フロンタルを擁護
すべく、持てる戦力を〈メガラニカ〉宙域に結集。復讐に燃
えるアンジェロを中心にバナージの排除に乗り出す。



AMX-006 GA-ZOWNN
ガ・ゾウム



MS-14A
GELGOG
ゲルグ



AMX-011 ZAKU III
ザクIII



AMX-101E
SCHUEZUM-GALLUSS
シュヅム・ガルス



MS-14J REGELEU
リゲルグ



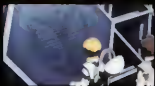
MSN-03 JAGO DOGA
ヤクトドーガ

HISTORY TIMELINE ー戦艦の戦時ー

■「ラブラスの箱」の正体

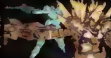
〈ネル・アーガマ〉の支援もあって〈メガラニカ〉への潜入を果たしたバナージは、ついに『箱』の安置された場所に到着。それは宇宙世紀改暦セレモニーを襲ったアオ事件によって失われたはずのオリジナルの宇宙世紀憲章だった。果たすべき宇宙移民時代において、宇宙に適応した新人類に対する権利を約束した全文は、奇しくも後年のジョン・ズム・ダイクンのニュータイプ論と一致するものだった。

連邦政府代表団をはじめとする各国代表の承認のサインがなされた箇所こそが『箱』の正体だった。



宙域を失っていたバナージたちの前にフル・フロンタルが現れ、箱の引き渡しを要求し、〈メガラニカ〉内戦で最終の戦いが始まる。

バナージと精神的な共振を覚えたことで和解したリディが戦いに参加。2機のユニコーンガンダムがフル・フロンタルに決戦を挑む。



MS 機体解析



RX-0 FULL ARMOR UNICORN GUNDAM [DESTROY MODE] フルアーマー・ユニコーンガンダム [デストロイモード]

決戦に備えて考案された ユニコーンガンダムの フルアーマー仕様

『UC計画』において開発されたフル・サイコフレーム機、RX-0 ユニコーンガンダム——カーディアス・ビストによって『ラプラスの箱』へと至る「鍵」の役割を与えられたこのMSは、のちに『ラプラス事変』と呼ばれる争いの核となった。そのため、「袖付き」との戦闘に巻き込まれるケースも多く、同機を収容した地球連邦軍ロンド・バルの強襲揚陸艦（ネル・アーガマ）では実戦に即した強化プランが考案された。それがこのRX-0 フルアーマー・ユニコーンガンダムである。本機は（ネル・アーガマ）で独自に考案された仕様で、政治的に孤立した同艦が調達可能な装備を用いて火力の強化が図られている。急ごしらえの現地改修ながらも良好な性能を示し、「袖付き」との決戦で戦果を挙げた。



フルアーマー・ユニコーンガンダムの機体構造は、（ネル・アーガマ）に備えていたものの、フルアーマー化によって機体各部の拡張を要した。



胸部装甲はデストロイモードへの変換を可能にする役割がなされている。機体装甲の厚さが、機体の特性を踏まえた仕様だったといえる。

機体比較



RX-78 GUNDAM 18.0m	RX-0 FULL ARMOR UNICORN GUNDAM [DESTROY MODE] 21.7m	RX-0(N) UNICORN GUNDAM 02 BANSHEE NOVA 21.7m
--------------------------	--	---

機体オプションがマウントされているため、両機と比べると全高は大きく異なる。また、上方に追加装甲が突き出しているが、機体そのものに手は添えられておらずサイズにも変わりはない。



RX-0
FULL ARMOR
UNICORN
GUNDAM
DESTROY MODE
Front view



同スケール
パイロットとの対比

MS 機体解析 機体解説

ユニコーンガンダムの“変身”と共存するフルアーマー仕様の効率的な設計と機能

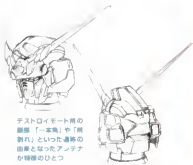
ユニコーンガンダムは「NT-D」と呼ばれる特殊システムの発動によって、ユニコーンモードからデストロイモードへと“変身”する特異なMSである。その際に機体各部が伸長するため、平成争闘の「WSM計画」などにみられた機体をより、更に増加装備は過ぎず、RX-0シリーズの専用装備として開発されたアームド・アーマーも“変身”を阻害しない設計となっていた。そうした構造はフルアーマー・ユニコーンガンダムも同様で、背部を中心に追加装備を配することで“変身”への1歩を敷いている。

■頭部

頭部はデストロイモード時にプレートアンテナがV字型に展開し、ガンダムタイプMS特有の顔を描いたフェイスカードが露出する。その構造は改装前とまったく変わらず、追加装備による影響もなかった。なお、頭部ユニコーンには固定武装として60mmバルカン砲2基が内蔵されており、本仕様でも問題なく運用できる。



フルアーマー・ユニコーンガンダムの運用においては、バルカン砲が駆動になるほどの激しい戦闘が行われた。



デストロイモード用の頭部「一本角」や「角割れ」といった通常の由来となったアンテナが特徴のひとつ。

■胴体

本仕様では胴体にも手は加えられておらず、デストロイモード時には胸部前面や腰部スカートなどが展開してサイコフレームが露出する。なお、ユニコーンガンダムにはデストロイモードを超える極限機能が存在したとみられている。NT-Dの爆発レールが制御不能域に達した際に、機体制御を完全に同システムが掌握する機能「アンチポイント」は、本機の運用においては確認されていない。



左はユニコーンモード用の胴体ユニット。追加装備は背側と四肢に配され、胴体には存在しない。

RX-0[N] ユニコーンガンダムは、サイコフレームのNT-Dに反応してデストロイモードが発動した。

■胸部 脚部

胸部と脚部は追加装備のプラットフォームとして機能するか、デストロイモード時の「変身」に干渉しないようレイアウトされており、四股の可動にもほとんど影響はない。また、両前腕部にシールドを装備することで防御性能が向上しているが、本仕様の主眼はあくまで火力の増強にあり、機体名前の「フルアーマー」=「armament」=「武装」の意だったといえる。



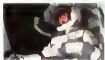
ミニビュレータはユニコーン仕様で、RGZ-95リゼルのヒーム・タイフを運用するケースもあった。



用意してきたAMX-005カノンに望みを託する場面もみられ、その戦術を押し進めるパワーを示した。

■コックピット

思考による機体制御を可能とするユニコーンガンダムの「インテンション・オートマチックシステム」は、本仕様においても有効に機能したと考えられる。すべての追加武装はリモートによる発射が可能で、インテンション・オートマチックシステムがサイコミュと連動してパイロットによる目標の感知を拾い、ある程度の自動照準を行ったといわれている。



追加装備の制御も思考の誤差の範囲で行われていて、コックピット内側の構造にも変化はなかった。



YAMS-132 ローセンサーとの交戦時には、通常とは異なるNT-Dの赤口口表示が映っていた。

■バックバック

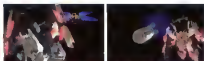
本仕様はバックハックの下部にマウント・フレームを増設し、そこに追加兵装と大型フースターを装備している。マウント・フレームのマウント部はバックハックの胴部に位置し、デストロイモード時のヒーム・サーベルのポジアップなどにも干渉しない構造となっている。また、このマウント・フレームに限らず、各種追加装備は任意でハッキング可能である。



左は追加装備を除いたマウント・フレーム。バックバックの胴部からマウント・アームが伸びている。



バックハックの胴部からプロペラントタンクと大型フースターの接続機構を模した状態。



左はマウント・フレームから銃筒を折り出した状態。マウント側の構造が見られる。また、フレーム自体もハッキングすることかできた。

マウント・アームと大型フースターの接続部。4本のアームでフースター先端を固定し、弾体弾に引き込む。

■プロペラントタンク兼大型フースター

追加装備によって増大した重量を補って戦闘継続時間を高めるため、背部にはマウント・アームを介して2基の大型フースターを装備している。これは94式ヘーストンハーのフースター部を流用したもので、プロペラントタンクを兼ねる。また、マウント・アームは可動構造を有しており、この大型フースターもある程度の推力方向の変更が可能だった。



大型フースターは重量増に対応するための機構だったが、即時的な機動力の向上にも寄与している。



大型フースターは推進源として経路にふたつあり、切り替えたフースターを駆動してその増発で加速を齎るといった運用も見られた。

MORE INFO

サイコフレームの発光現象

原案で定かでないサイコフレームの発光現象は、パイロ水の感応度によって変化を見せた。ユニコンガンダムは当初赤色に発光していたが、バナーク・リンクスの能力の覚醒に呼応して緑色に変化し、それにもない超常的な力を示すこととなった。



状況によってサイコフレームの発光は変化し、白い輝きを放ち、極めてほどの強さを見せられた。

サイコフレームが緑色に発光した状態。ニュータイプ力を選択するさまざまな超常現象を示した。



主體のサイコフレームが緑色に発光したフルアーマー・ユニコンガンダム。ただし、この色に発光したのは一部機構のバースドで、機体にはこの状態は確認されていない。



RX-0
FULL ARMOR
UNICORN
GUNDAM
(DESTROY MODE)
Rear view

MS 機体解析



RX-0 FULL ARMOR UNICORN GUNDAM [UNICORN MODE]

フルアーマー・ユニコーンガンダム [ユニコーンモード]

RX-0
FULL ARMOR
UNICORN GUNDAM
[UNICORN MODE]
Front view

装備の追加によって 継戦能力の向上を実現した ユニコーンモード

ユニコーンガンダムのNT-Dが發動していない状態、すなわちユニコーンモードは、機体やパイロットへの負担を低減して継戦時間を延長する意味を持っていた。その特性は兵装を追加して継戦能力を高めるフルアーマー仕様のコンセプトと合致し、フルアーマー・ユニコーンガンダムの同モードはデストロイモードの性能に頼らない高水準の戦闘能力を獲得している。元々が「補付き」との人間視戦闘を想定した決戦仕様であり、ユニコーンモードでの長期戦も織り込まれていたものと考えられる。しかし、実際にはユニコーンガンダム2号機 パンシィ・ノルンとの戦闘を強いられ、バナージが意図しないかたちでデストロイモードの発動を余儀なくされた。敵サイコム兵器の存在を感じてデストロイモードに“変身”するアンチ・サイコムシオンとしての特性が、当初の想定を狂わせたのだった。



補付き その戦闘を想定したネェル・アークが強化版を運用、先頭部隊の決戦時に改修が施されて戦闘投入された。



バナージはデストロイモードへの移行を断念しようとしたが、パンシィ・ノルンに引きずられるかたちでNT-Dが発動する。

機体比較



RX-78
GUNDAM
18.0m

RX-0 FULL ARMOR
UNICORN GUNDAM
[UNICORN MODE]
18.7m

RX-0
UNICORN GUNDAM OR
BAND-AGE NORN
21.7m

前線が伸ばしていない状態のため、全高はデストロイモードより低い。フルアーマー仕様の全高は不明だが、デストロイモードより小さかったのは確かだろう。無敵状態によって列装のホムスラムが爆発している点はデストロイモードに共通している。

SPEC

総高 17.7m 本体質量 45.1t 全機質量 76.9t

装甲材質 カンタラム合金

ジェネレーター出力 13,450kW

スラスター推力 189,700kg

武装 ビームサーベル×4、射撃 60mmバルカン砲×2、ヒール・マガナム、ハイパーバズーカ×2、ム・カトル、カン×6、対艦ミサイル・ランチャー×2、バレット・ブレイク×8、グレネード・ランチャー×2、ム・カトル×3



(ネェル・アーク)から発射するフルアーマー・ユニコーンガンダム、ブースターの噴射が威力を要している

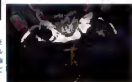
MS 機体解析 機体解説

ユニコーンガンダムの穴を埋めるべく 孤立した状況から導かれた大胆な発想!

ユニコーンガンダムは本来、敵サイコ通信兵器との一対一の戦闘を想定した機体であり、しし計画ではRGM-96X シェスタとの連携やアムト・アーマーの装備で機動能力を補う予定だった。だが、本機は「箱」を運る介体によって計画から外れ、政治的な思惑のなかで、ネール・アーガマ もろとも孤立することとなる。その結果、計画に基づく補助は得られず、フルアーマー・ユニコーンガンダムという新たな姿へと変貌するにやったのである。



フルアーマー仕様の改修は、袖付きとの共同開発から開始。完成に近づいた。



〈ネール・アーガマ〉を占領するバンシィ・ノンの攻撃にあたり、強化仕様のRX-9の両手で戦いを繰り広げた。

RX-9
FULL ARMOR
UNICORN GUNDAM
(UNICORN MODE)
Rear view



■資料

フルアーマー仕様の完成に際しては、その時点で「ネール・アーガマ」に残存していたさまざまな装備が用いられた。その前提となつたのは、機種を問わず搭載できる装備を可能な限り詰め込もうとした大胆な発想である。RGM-88S スタークジェガンの3連装ミサイル・ポッドの内部機構だけを使うといった手直しも、その表れであった。



スタークジェガン



両腕の大型フースターが活用された
S94式ベース・シャパー



改修作業中のユニコーンガンダム
さまざまな機種が活用された

■発案者

フルアーマー仕様を発案したのは、〈ネール・アーガマ〉に収容されていた民間人の少年、タクヤ・イレイである。ユニコーンガンダムの一連の戦闘データを開析したタクヤは、同僚の強化プランを独自に考案。それにAE（アナハイム・エレクトロニクス）社の技術者アロン・テイルシェフが厳密な調整を施すことで、本仕様は完成に至った。



タクヤ・イレイ

箱を運る争いに巻き込まれたバナーシの軍人であり、大のMSマニア



アロン（左）はユニコーンガンダムの開発に携わった人物だった

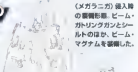
TECHNOLOGY INFO

■〈メガラニカ〉侵入時の装備

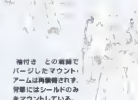
フルアーマー仕様は、砲弾を撃ち切ったデッドウェイトとなった兵装をバナーシしていく想定だった。そのため、袖付きのMS部隊との交戦が終了した時点で残っていた兵装は少なく、〈メガラニカ〉に侵入した際にはその一部を補充して不測の事態に備えた。



〈メガラニカ〉に向かうユニコーンガンダム。その際にはS94式ベース・シャパーを用いた。



〈メガラニカ〉侵入時の装備形態。ビーム・カトルガンとシールドのほか、ビーム・マグナムを装備した。



袖付きとの戦闘でバナーシしたマウント・アームは両腕で保持されず、背中にはシールドのみをマウントしている。

MS 機体解析 武装解説

汎用オプション火器によって 対多数の戦闘への対応を図った フルアーマー仕様の兵装構成

ユニコンガンダムは決戦兵器の性格が強いニュータイプ専用機を誇るアンチ・サイコメーションとして設計された。そのため、早機への瞬間的な戦闘力に優れる反面、対多数の戦闘能力には問題があったといえる。フルアーマー・ユニコンガンダムはその問題の解消を目的とし、多数の汎用オプション火器を装備することで集団戦に対応した万遍ない火力を獲得している。なお、本仕様は防御性能よりも攻撃力を重視しているが、発案者であるタカヤの強い希望によって「フルアーマー」の名称で呼ばれることとなった。



■ビーム・マグナム

ユニコンガンダムの主兵器として開発された専用兵器。射撃時に機体的なバウンスを消費する。ビームを弾行火器で「マガジン」との容弾数は5発。その威力は一般的なビーム・ライフルの約4倍に相当する。フルアーマー・ユニコンガンダムの運用においては最初の出撃時には装備されていないが、増付 MS 部隊の撃退後（メカラン）に、侵入する際に1基を弾行した。



■ハイパー・バズーカ

ハイパー・バズーカは地球連邦軍の標準的なMS用弾行火器。反動器をユニコンガンダム専用仕様変更したものといわれる。フルアーマー仕様では背部マウント・アームの左側に2基が装備される。また、レールマウントを備える機体はウェポン・プラットフォームとして機能し、後述の対艦ミサイル・ランチャーとハンド・グレナード、グレナード・ランチャーをマウントして運用された。



■ビーム・ガトリングガン

NZ-666 ウィットリヤ用に開発されたネオン・オン製ビーム系火器。弾行兵器として用いることもできるが、本仕様では後部で連結した2基を一組とし、シールド裏にマウントした状態で運用された。3基のシールドそれぞれに1組、計6基を装備している。サイコフレームに共通して連弾操作されるシールドからの発射も可能で、その状態を「シールド・ヒート・シールド・ファンネル」と呼ぶこともあった。





ビーム・ガイドリング管は4本の電極が配置してビームを導射する。上は、導射管として用いる管の断面。

3番のサールドが
死滅することで怪
獣以上の力を発揮
し、サイコ・フィー
ルドを発生させる
こともあった。

上部はスナ・キャノンのビーム・ライフルで、銃身下部のグレネード・ランチャーが本仕様に改造された。

スタークジェガンの
のび盛盛なサイ
ル・ボットの例
を取り出し、内
部ミサイルセル
はみき活用して
いる。

初期は側面が互いに干渉することなく、最大限に強度できるようにレイアウトされている。その後甲突もあって、本巻は「袖付き」が大部隊を相手に八雲穴巻の活躍が主役なのである。

凡そ、クレネーキ
の産産産産だが、
産産は産産産産を
有する。ユニツク
も小産で産産産に
産産産産。

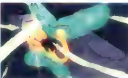
パンキ・ノルンと
ビーム・サーベル
で初め結び、互角
の戦いを演じた
上場ビーム・サー
ベルはデバイス。

■シールド

サイコフレームとヒュームルト発生線を内蔵したユーロ・カ
ンタム専用の防部装備。裏面にヒュームカトリックガン2基を
マウントして運用され、両腕胸部と背部に計3基を装備する
特種すへきは本体とノールトのサイコフレームが共振した状
態の独立振動で、推力を持たない。もかわらずヒューム兵器
のように自在に機動し、インテンション・オートマチック・システム
で運動して遠隔操作される。



シートはネオ
シオノグのメカ
粒子間の連続所
断を防ぎきる様
との優れた防蝕
性能を発揮して
いる。



■対艦ミサイル・ランチャー

ハンド・グレネード

対艦ミサイルランチャーはスターウエカン用のオプション
兵装で、2門のハイパーバスターに1基ずつ計2基を装備
する。ハートクレネートはRGM-89エカンやRGM-36Xエ
スタのオプション装備「ハイパーバスター」に、各2基と同
様に、各2基の計8基を備える。それぞれ特性は異なるが、共
に艦上で空対空運用時に使われる固体燃料火药であら



雑誌のハント
グレネードを発
射するユニコー
ンガンダム。空
になったバック
は邪魔にハシ
された。



■グレネード・ランチャー

ビーム・サーベル

ハイパー・バスカーにはシеста用のオプション兵器である
フレート・ランチャーが1基ずつ装備される。また、ユニコー
ン・タンクの増装装備であるヒーム・サーベルは、通常の仕
様と同じくバックパックと両前輪部ラックに2基ずつ計4基を
備える。ただし、両輪部にミールを装備するためか、ヒーム
・サーベルとしての運用はみられなかった。



通常の仕業と異しく、バックパックに搭載されたヒーム・サーベルはユニコーンモートでは使用できない。



関連MS ラインナップ



FULL ARMOR UNICORN GUNDAM

フルアーマー・ユニコーンガンダム



■RX-93 ヴガンダム

アム・レイが基礎設計を担当したvガンダムはコクピットと腰部部にサイコフレームを採る。これはバリエーションの意を可動部に直接伝達する仕様だった。しかしアグリスを導る最終決断においてアムレイの興する新技法と、共同したサイコフレームは予定以上の情報を開発。のちにサイコ・フィールドと名づけられた力を発生させてアグリスの軌道を変え、新しい戦術を発見する人々に、人間の意図が成しうる可能性を示したのだ。

■RX-9 ナラティブガンダム

νガンダムの開発はU.C.0093だが、それ以前からサイコフレーム素材の開発は行われており、色毎データ収集が行われていた。その試験機として開発されたのがナティブガンダムである。開発担当はAE(デナハイム・エレクトロニクス)社であるが、U.C.0097年の状態ではサイフレームには搭載されていない。そのためサイフレームの試験機として運用されたかどうかについても正確な記述は見えない。

■RX-0 ユニコーンガンダム2号機
バンシィ・ノルン

ガルダ鉄道巨大輸送機上でユニコーンガンダムと交戦したバンシィは、その後、AE社によって追加開発を命じられ、基本性能の大幅な底上げが図られた。それがバンシィ・ノルンである。機体のサイコフレーム増加兵装（アームド・アーチャー）を肩部に装備。さらに両腕が自由になったことで汎用性が増したほか、ニュートラル能力が未熟なパイロットでも「変身」が可変となった。



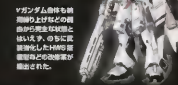
サイコフレームの詳細は、ガンダム開発主任(オクトバー・サラン)にも聞えられておらず、試験運用時は意図合いもなかった。



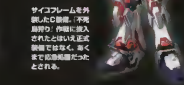
シナンジュ・スタインの
ハルユニットとドッキング
直前に入ったナラティ
ブガンダム。この機体も
設定外の出来事である。



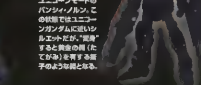
背部に装備したアームド・アーモードEがパイロットの反応を感知、デストロイモードへの移行を強要にした。



▼ガンダム自体も純
増強り上げなどの機
由から完全な破壊と
はいえず、のちに真
実強化したHMS超
量型などの改造案が
提出された。



サイコフレームを外装した口輪。「不死鳥狩り」作戦に投入されたとはいえ正式装備ではなく、あくまで緊急処置だったとされる。



ユニコーンモードの
バンシィ・ノルン。こ
の状態ではユニコー
ンガンダムに違いシ
ルエットだが、“変身”
すると黄金の機（た
てがみ）を有する新
子のような機となる。

機が奪取したニュータイプ能力に目覚めたリタ・ベルナルがテストパイロットに選ばれた。だが試験開始中の暴走事故によって機体ごと消滅し、消息不明になっていた。



シナンジュ・スタインは右腕が義肢になっており、3つ1組はジオン側の機体(ただし「機体」を義肢)に搭載するソルタン・アッカネンに見えられた。



機体は、右腕で動くフル・フロンタルが義肢。「機体」の義肢の両腕に、圧倒的な運動性を発揮して戦う者を期待した。



パイロットの精神を取り込んだ不死鳥



機体裏面に機体に取り込まれた宝石の原石

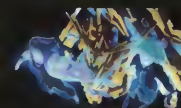


機体は、右腕で動くフル・フロンタルが義肢。「機体」の義肢の両腕に、圧倒的な運動性を発揮して戦う者を期待した。

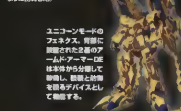


■RX-0 ユニコーンガンダム3号機 フェネクス

地球連邦宇宙軍が主導した「UC計画」によって誕生したユニコーンガンダム3号機。副ビーム・コーティングを施された真鍮色のエマルジョン塗装が目を引くが、最大の特徴はテストパイロット(リタ)を取り込んだことにある。とはいえリタの精神はサイコフレームを介して機体につながっているため、内体はなくとも、意識の残滓は今現在も存在しているようだ。



#ネオ・ジオングとの最終決戦では、リタとミシエル・ルオの両名がフェネクスに付き添うが、このように前線に立つ。

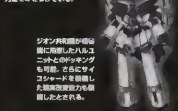


■MSN-06S-2 シナンジュ・スタイン

ユニコーンガンダム開発に先駆け、サイコフレームの強度と造形性の検証機となったMS。「原石(スタイン)」の名を与えられたのはそのため、いわばユニコーンガンダム0号機といふべき出自を有する機体である。本機は建造中に「機体」の損傷を受けて廃棄された。以後、歴史上から消滅したとされる。だが実際には機体事件そのものがフェイクであり、「機体」への機体の調査をカモフラージュするための工作だった。



フェネクス破壊を止めるナラティブガンダムの際に出現したシナンジュ・スタインは、圧倒的な運動性を発揮している。

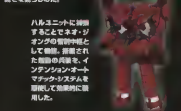


■MSN-06S シナンジュ

廃棄されたシナンジュ・スタインをベースに改造されたMS。フル・フロンタルの形象を前線としたため、常人では想像しきれない能力が付与された。とくにバックパックと両腕部に搭載されたフレキシブル・スラスターは圧倒的な運動性を生み出す駆動力となり、かつての赤い彗星の動きを彷彿とさせる「超機動モード」を実現。このことから本機は「機体」のフラッグシップ機となり、将兵たちの士気を高揚させたのだった。



ゼネラル・リトルとの戦いで大量のMSを相手に一歩出陣の動きを示し、能力の高さを示した。



ジオン兵衛隊が機体裏面に搭載したハル・ジオンとのシンキングも可能。さらにサイコシャードを装備した超機動能力も備わるとされる。



ハルユニットに接続することでネオ・ジオングの機体や機として機体。搭載された機体の兵衛隊、インダクション・オートでバック・スラスターを駆使して機体的に運用した。



MSパイロット——バナージ・リンクス——

“可能性という内なる神”を信じて戦場に身を置き、
非情な現実に対し、ニュータイプへの扉を開いた少年。

ハナリー・リンクスは、1 業スパーノ・ノビー・イン・デス
トリブルの A/E (アナハ・エ・エ・リ・ノ・ス) 1 業
門学校に通う、ごく普通の学生に過ぎなかった。だが、エ
コーン・ダグ・バリーのバロウとして、ラブスの箱を悪
魔争いに巻き込まれたことで、宿命な選択を強いられる
ことになる。自分の行動が戦況を左右し、多くの死を招き
かねないことが、理不尽な戦場に放り込まれたハナリー
を打つ。ついに彼の運命を自ら決めさせた。しかし、

オーダー・バーンにミネハ・ラオ・サビの力になろうとする
兵士直ぐな想いで、戦いのなかで燃れた人の魂が
か、ハナツに力を与えてい。そして、父・カデ・アス
ピスにかけた言葉の 節 人間だけが神を持つ。今
を超える力、可能性という内なる神を、心を剣に、人
の可能性をもして 節 の真実と向き合ったのである
そして、節 節 を超える戦いの最終局面において、彼の想
いはひとつの 命綱 を発見することになった



バナージ・リンクス BANAGHER LINKS

DATA

年齢:16歳 所属:悪魔人 階級:—— 出身:サイド1,3パンチ「エデン」 能力:MS操縦、ニュータイプ

▶ **ラプラス事案** の最終局面におけるバナージの活躍

ハナージは常に「ラプラス事変」の中心に在り、時々はユニコーンガンダムと共に地球に降り、そこでさまざまな人々とその想いに触れたハナージは、ヒスト財団に囚われていたオードリーを救出して宇宙に送る。同時に、人の善悪を信じて「箱」の開放を試みた父の遺志を継ぎ、ラプラス・プログラムを止す最終座標をオードリーに明かした。それはネル・アーガマと一時的な親交関係にあった「袖付き」にも伝わり、両者の決闘とともに「箱」の争奪戦が始まることとなる。

ハナージはその戦いでフルアーマー ユニコーンガンダムを駆り、ヒスト財団が差し向けたリデター・メサスのユニコーンガンダム2号機バシィ・ノルンと交戦。さらに、袖付きとこの戦艦のなかでローゼン・ズールのサイコ・ジャマーに捕らえられるも、マリー・ダグリスの死をきっかけにニュータイプ能力を覚醒させてアンジェロ・ザウバーを退けた。それらの働きによって道を拓いたハナージは、オートリーと共に 箱 へ眠る(メガラニカ)に向かったのだ



旅の終着点でバナージが示した ニュータイプとしての力と可能性

《メガラニカ》でヒスト家宗主サイアム・ヒストと対面して「箱」の真実を知ったバナージは、ユニコーンガンダムに導かれたニュータイプとしてではなく、ひとりの人間として「箱」の開放を望んだ。そして、人の可能性を否定して「箱」の真実を伏せようとしたフル・フロンタルと対決することになる。その戦いのなかでフロンタルに“剣の果て”の虚無を見せつけられながら「それでも」と言い続けたバナージは、己の意思の“熱”をフロンタルに伝えてネオ・ジオングを自爆に導いた。さらに、「箱」を消し去るために《メガラニカ》が握られていることを察知し、リディととともにユニコーンガンダムのサイコフィールドでコロニーレーザーを止めるという常識外れた現象を引き起こした。それらは、バナージが信じ続けた人の可能性の究極だったといえる。



「箱」を開放した先に何を残すかをサイアムに問われたバナージは、人が持つ可能性への希望を力強く語るのだった。



バナージの虚無は光と並び、フロンタルが信じた虚無の世界を照らす。

バナージはコロニーレーザーの角のなかで新たな道を照らす。



バナージ・リンクスを通るさまざまな人間関係



地球から帰還してネエル・アーガムに会った際のツナギ



バナージの意思はすべての終わりにカークアスの悲鳴と抱え合う。バナージを抱きとめたカークアスは、彼が子になるべき場所を指し示すのだった

▶オードリーが伝えた「箱」の真実

箱を託されたハナナシとオードリーは最終的にその開放を選び、サイアムが用意した全地球圏規模の通信網によってその真実を世界に知らせたのだった。



オードリーはミネバとして「箱」の正味、つまり箱の宇宙世紀版の全容を地球圏全域に発信した。

ネオ・ジオンの襲撃に身を屈めたオードリー。宇宙世紀版の全容を地球圏全域に発信した。



▶MAIN MS

RX-0 フルアーマー・ユニコーンガンダム
オプションによって攻撃力の強化を図ったユニコーンガンダムの現地改修仕様《メガラニカ》を巡る格付けとの最終決戦に投入された

RX-0 ユニコーンガンダム

「UC計画」で開発されたフルサイコフレームMS。バナージのニュータイプへの覚醒によってさまざまな超常現象を引き起こした



戦場の舞台となった宙域



（ネル・アーガマ）

地球連邦宇宙軍外郭新興部隊ロンド・ベルに所属する強襲掃略艦。U.C.0088の第一次ネオ・ジオン戦争において連宙（ウーゴ）からロンド・ベルに移籍後はラー・カイラム船機船機艦の就役まで同部隊の旗艦を務めた。同型艦が存在せず艦隊運用が難しいため、単独任務に就くことが多いが、それに見合った近代化改修が施されている。

（インダストリアル7）

旧サイド5（サイド4）に位置する密閉型工業コロニー。ビスト財団の私有物だが管理・運営はAE（アナハイム・エレクトロニクス）社が担当している。AE社の関連企業が置かれているほか、新兵訓練用秘密工場もあり、ユニコーンガンダムの建造もこの地で行われた。

（メガラニカ）

スペースコロニーの建造を担当する大型工業艦。こちらもビスト財団の私有物で、財団宗主サイアム・ビストの屋敷が存在する。その正体は巨大大船隻艦で、単独での長期航行が可能である。

01

「袖付き」との一時的共闘

地球連邦軍参謀本部の討伐対象となった（ネル・アーガマ）はやむなく「袖付き」との共闘を回す。これを機にフル・ロントラルは自らの計画を明らかにし、それはスペースノイドの解放のために地球を切り捨てた戦術的共闘（サイド共闘）の成立だった。水圏の可能性を信じ、サイド共闘に反対姿勢を示すパナージ。するとふたりの間を開いていたミネルバ・オ・ザビが「戦」の最終座標を開示。相応するふたりの現実論と理想論をあえて天秤にかける。未来の行く末を託した。



「戦」の最終座標を開示したことから関係は瓦解。「戦」が破壊された（メガラニカ）への影響が開始された。

02

最終決戦に向けての改修

サイド共闘確立の道具に「戦」を使うとするロントラルは、持てる戦力を（メガラニカ）の位置する（インダストリアル7）宙域に集中するに決意を固めた（ネル・アーガマ）では最終決戦に備えてユニコーンガンダムの改修が急ピッチで行われることになった。タウヤ・イレイの発想にAE（アナハイム・エレクトロニクス）社のアーロン・テルジェフが着目。完成したフルアーマー・ユニコーンガンダムは、急造といえど良好な性能を発揮すると思われた。



全身に大型コロニー・システムと武装を追加。それでも機動性は低下せず、むしろ加速性能が向上するほどだった。

03

「ラブラスの箱」争奪戦

ネル・アーガマMS隊とミネルバに従う「袖付き」連反部隊の援護を受けてフルアーマー・ユニコーンガンダムは（インダストリアル7）宙域に向かった。だがほぼ同時に「袖付き」もMS部隊を発進させて対抗。両宙域で激しい戦いが開始された。インテンシブ・オートマチック・システムの支那もあってパナージは機体に搭載した複数の武装を量々と運用。「袖付き」のMSを撃破していったが、どれほど損害を考えても相手は一本も引こうとしなかった。



拒絶機能的な機体と戦うに困難を感ずる「袖付き」。機体の性能の差が、戦況の急変に「袖付き」は思わぬ苦戦を強いられる。

袖付きMS部隊

戦況の経緯

U.C.0096に引き起こされた「ラブラス事変」は、「ラブラスの箱」と呼ばれる重要機密を巡る争いである。「戦」の情報開示は地球連邦政府の支配体制を揺るがしかねないため、各勢力が「戦」の所有権を巡って衝突したのだ。たとえば「袖付き」は地球連邦政府を排除したスペースノイドのみによる自治確立を目指す「サイド共闘」実現のために「戦」の利用を主張。一方、既得権益に固執する地球連邦政府と地球連邦軍は「戦」とそれにかかわる者たちの抹殺を企んでいる。しかし最終的に「戦」の所有権はザビ家の血縁にあたるミネルバ・オ・ザビに渡り、彼女の手で地球圏全域に開示された。

U.C.0091

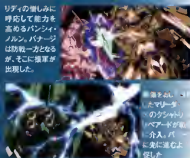
・1月1日 ラブラス事件、発生。
宇宙世紀への改修セレモニー中、テロによって低軌道宇宙ステーション（ラブラス）が破壊（ラブラス事件）。リカルド・マーセナス地球連邦政府初代前首相をはじめ、連邦構成国代表が多数犠牲になる。サイアム・ビスト、宇宙世紀継承（のちに「ラブラスの箱」と呼ばれる）を発見。
前首相官邸爆破テロ組織とそれを支援していた分離主義国家、連邦軍によって増援。以後、反地球連邦政府運動の爆発した取り巻きの開始。

U.C.0089

・連邦軍、スペースノイド軍のコロニーに対する経済制裁を強化。
・U.C.0090
・3月 外郭新興部隊ロンド・ベル、設立。
・2月27日 ネオ・ジオン総帥シャア、テレビ放送を通じて連邦政府に事実上の宣戦布告。
・3月 第二次ネオ・ジオン戦争（シャアの反乱）勃発。地球に落下しつつあった小惑星基地アクシズが、サイコロプレムの暴走で軌道から外れる（アクシズ・ショック）。

パンシィ・ノルンとの攻防

思うように先へ進めないフルアーマー・ユニコーンガンダムの前に新たな障害が立ちちはだかった。リディ・マーセナスが搭乗するユニコーンガンダム2号機「パンシィ・ノルン」だ。ミネバに悪いことをしていたリディはパナージの存在を隠さず知っていたのだ。新型アームド・アーマーを増設したパンシィ・ノルンはリディの憎悪に反応、機体をデストロイモードに「変身」させて攻撃を加える。一方のフルアーマー・ユニコーンガンダムもパンシィ・ノルンに引きまぜられるように「変身」、リディと戦う理由のないパナージは説得の言葉を繰り返すのだが、怒りと憎しみに囚われたリディにその言葉は届かず、ユニコーンガンダム同士の戦いは長くかと思われた。

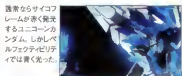


パンシィ・ノルン

MS OTHER 戦記

もうひとつのフルアーマー形態

「袖付き」との決戦を前にして用ゐられたユニコーンガンダムのフルアーマー形態は、(ネール・アガマ)に搭載されていた装備や兵装を利用した、いわば「現地改修」だった(それでも全体的なバランスは絶妙であり、発案者のタカウ・イレイのセンスのよさを窺わせる)。だがこれとは別に、正統のフルアーマー形態とでも呼ぶべき仕様が確認されている。それが「ユニコーンガンダム ベルフェクトイデリティ」だ。アームド・アーマーの存在を知ったタカウが考案したフルアーマープランBがベースとなり、背部にアームド・アーマー-XGとDE(2基)を、右腕にBSを、左腕にVNを、携行武器としてハイパー・ビーム・ジャベリンを装備、さらにアームド・アーマー-DEにはスタビライザーが増設されている。一説によると「ラプラス事案」の最終局面においてネール・アガマを発艦したベルフェクトイデリティはネオ・ジオングと交戦、苦戦の果てにこれを撃破したらしい。



戦闘中、ほとんどのアームド・アーマーを失ったが、最後に残ったヴァイパー・ノールで戦いを制した。

サイコ・ジャマーの脅威

パンシィ・ノルンから送られたフルアーマー・ユニコーンガンダムは、(ネール・アガマ)を捜索したのちに(メガラニカ)への移動を再開した。だが新たな敵に行く手を阻まれてしまう。今度の相手はローゼン・ズールを駆るアンジェロ・ザウバーである。フロンタルを襲撃するアンジェロは、彼の関心をパナージに向けられつつあると感じ、自らの手で障害を排除しようとしていたのだ。友軍機への被害を気に押さずに猛攻を加えるローゼン・ズールだが、なかなか致命打を与えることができない。それでもアンジェロはあきらめなかった。なぜなら特別なシステムを用意していたからだ。サイコミュ攻撃用に開発された「サイコ・ジャマー」である。



ローゼン・ズール

サイコフレームの共鳴の果てに

フルアーマー・ユニコーンガンダムがローゼン・ズールに倒されていった頃、クシャトリヤ・リバードとパンシィ・ノルンの戦いも新たな局面を迎えようとしていた。サイコフレームの共鳴によってマリッジの思念がリディに伝わり、彼は憎しみの呪縛から解放されたかと思われた。だがミネバを救う心を捨て切れぬリディはクシャトリヤ・リバードに「ビーム・マグナム」を向ける。するとマリッジはあえて銃口に機体を晒し、その攻撃を受け止めた。すると次の瞬間、両体の束縛から自由になったマリッジの思念が戦場全体に広がり、彼女の無私の愛がリディを正気に戻した。こうしてリディも「箱」の真実に向かうべく(メガラニカ)に向かうことになるのだが、その陰にはマリッジの犠牲があった。



パンシィ・ノルンの攻撃を喰ひ止めたにも関わらず、マリッジはリバードに、これによってマリッジの肉体は失われたが、彼女の思念は「箱」となって戦場のあちこちに出現、戦いで忘れていた人と人との絆を思い起こさせるきっかけとなった。



これによってサイコミュ・システムを奪取したローゼン・ズールは自滅した。

V ローゼン・ズール

新たなサイコフレーム伝説へ

「ラプラス事案」後、大難を越えた能力を発揮したユニコーンガンダムを恐れ、地球連邦軍は、人類文明を根本から変えかねない技術的特異点「シンギュラリティ・ワン」と認定して危険視。ミネバと地球連邦政府によって、パンシィと共に封印・解体処置が決定した。同時にサイコフレーム研究も封印されたのだが、実際には秘密裏に継続されたようだ。一例としてU.C.0097の「不死鳥狩り」作戦においてサイコフレームが用いられたとの記録が残されている。



解体処分されたはずのユニコーンガンダムも、ミネバ監視の下、(メガラニカ)に保管されている。

U.C.0096

・ビスト封鎖直主カーディアス・ビスト、ネオ・ジオン残党軍「袖付き」と、「ラプラスの箱」の引き渡しに関する交渉を開始。

・4月7日「ラプラス事案」、勃発。

・最終的に「箱」がコロニービルダー(メガラニカ)にあることが判明。争奪戦の果てに、ミネバ・ラオ・ザビによって「箱」の正体が開示される。

・5月4日「ラプラス事案」終結。

・連邦軍、サイコフレームおよびサイコフレーム搭載機の研究開発を封印。

U.C.0097

・2年前に消息不明となっていたユニコーンガンダム3号機「フェネクス」が地球圏に出現。

・連邦宇宙軍「シェザール隊」「不死鳥狩り」作戦に参加。

〈ネエル・アーガマ〉に残された武装を装備したフルアーマー・ユニコーンガンダム。急造された仕様であったが、ラプラス事変の最終局面に投入され、大きな戦果を残した。

KEYWORD

■ **UC計画**
「地球連邦宇宙開発計画」の一環として開発されたMS開発計画。3機のRX-0が開発され、うち2機は「ラプラス事変」において重要な役割を果たした。

■ **「ネエル・アーガマ」**
地球連邦軍外務開発総局「ロンド・ベル」所属の艦船。〈インダストリアル7〉以降、ユニコーンガンダムの母艦ともなった。

■ **ダライア・イレイ**
ユニコーンガンダムのパイロットであるバナー・リィの友人。ユニコーンガンダムのフルアーマー・ユニコーンを立派にした。

MSN-06S

シナンジウ

開発したシナンジウを機体で改造した。機体で組組の両端であるフル・フロンタル大佐の専用機。改造にあたっては機体色は白と黒と地の装飾の形状が改められ、エンクレヒックも施されている。



NZ-999

ネオ・シオンク

ユニコーンであるシナンジウとハル・ユニコーンを改造して専用機用MA機体各部に備えられたメカ粒子砲とフィート・ネエネレーターによる高い防御力に加え「サイコネット」の発生装置を有する。



応用

改造

MSN-06S

シナンジウ・スタイン

スタイン01の開発コードの下 UC計画で開発された試作MS サイコフレームの強度や柔軟性などの試験を目的としていた。そのためパイロットの搭乘は想定しなかったとされる。輸送中に被害に遭い（を襲い、破壊）される。

発展
(**ガンダム**)
を参考)



発展

RX-93

ガンダム

「UC」レイが開発したガンダムタイプMS。当初サイコフレームは搭載しなかったが、最終段階において採用された。サイコミやファンネルを搭載する。本機をベースとしたバリエーション機が計画・建造されたといわれる。

発展



改造

MSN-06S-2

シナンジウ

スタイン

ネオ・シオンク機体で機体で改造した。機体で組組の両端であるフル・フロンタル大佐の専用機。改造にあたっては機体色は白と黒と地の装飾の形状が改められ、エンクレヒックも施されている。



応用

NZ-999

IIネオ・シオンク

ラプラス事変後、地球連邦軍に回収されていたネオ・シオンクの手帳・パーツを用いた機体。同型機がオミオミされたほか、胸部にも有線誘導機能が増加されている。シナンジウ・スタインのほか、ナラティブガンダムがコアユニットとなったケースもみられる。



RX-9

ナラティブガンダム

AE（アナハイム・エレクトロニクス）社が開発したガンダムタイプMS。サイコフレームの試験機としてガンダム以前に建造された。UC 0097の不死鳥特作機に投入されたが、その際はサイコフレームは搭載せず、数種類のオプション装備が用意されていた。

RX-0 ユニコーンガンダム

『UC計画』において建造されたRX-0シリーズのうちの1機。全身のムーハブルフレームがサイコフレームで構成された「フル・サイコフレーム実装機」である。ラプラスの箱の「扉」としての役割を有した。



現地改修



別仕様

別仕様

武装変更



RX-0 ユニコーンガンダム2号機 パンシィ

ユニコーンガンダムの2号機で、機体色が黒になっているほか、頭部のブレードアンテナの形状が1号機とは異なっている。左右の腕に2機のアームド・アーマー（アームド・アーマー-Bとアームド・アーマー-VN）を装備し、射撃力が強化されている。

RX-0 ユニコーンガンダム2号機 パンシィ・ノルン

パンシィの総合性能向上仕様で、シールドにはアームド・アーマー-DEを、機体背部にはアームド・アーマー-XCを搭載する。特に前者は出力の増強に加え、NT-0の発動を緩和するなどの効果があった。『ラプラス事変』最終局面で運用された。

RX-0 フルアーマー・ユニコーンガンダム

ユニコーンガンダムの強化仕様。ビーム・マダナムやシールドといった基本装備のほか、6挺のビーム・ガドリリングガンや2基のハイパー・バズーカ、ミサイルランチャーなどを装備する。また、04式ベース・ジャバーのスラスターを転用したブースターユニットによって機体重量の増加に対応。これらの設備は在量でバグじできるため、デッドウェイトとをにらみながら、テストパイロットへの安全を最優先するように配置されている。『ラプラスの箱』を運ぶ争乱の最終局面において投入された。

RX-0 ユニコーンガンダム3号機 フェネクス

U.C.0095におけるテスト中の暴走で行方不明になっていたユニコーンガンダムの3号機。U.C.0097に地球圏に飛来し、地球連邦軍、ルオ商会、シオン共和国が捕獲作戦を展開した。なお、この際、フェネクスは無人で行動している。





パーツ流用と共通化

機動兵器の開発には多大なコストがかかることから、新型機や改修バリエーションの開発に際しては既存の機動兵器のパーツ流用や、共用化を図るケースが増加した。結果、開発コストだけでなく互換性や整備性の向上にもつながったのだ。



「他機種のパーツ」を使用した機動兵器群

パーツの流用や共用化は、工業製品でも用いられる手法である。車種が異なるエレカ同士でも、シャシー、モーター、バッテリー、タイヤなどを共用化した例は多く、開発・生産コストや整備性などを向上させつつ、商品のバリエーションを増やせる点が大きなメリットである。

同様のアプローチは機動兵器の開発でも用いられた。この傾向は、開発期間や投入リソースなどが極端に制限される時期（大規模紛争中や軍縮期）に顕著である。MS-06J ザクII型やMSM-03 ゴッグの部材を流用したMSM-04 アッガイ、主力であるMS、RGM-89 ジェガンシリーズの部品規格を設計に組み込んだ可変MSのRGZ-95 リゼルやRAS-96 アンクシャなどといった機体が該当する。

同様の手法は、前線や拠点レベルでの機動兵器開発・改修にも多用されている。前線で独自に開発された機体としては、ザクIIの上半身とマゼラ・ベース（ジオン公団軍の戦車マゼラ・アタックの車体）を組み合わせたMS-06V ザク・タンクが代表的である。前線での独自改修はその後も広く実施され、「ラプラス事変」でも多数確認されている。

兵装の転用

機動兵器そのもののバリエーション以外でも、機種の垣根を超えて搭載されるケースがある。その代表が兵装であり、特にビーム・ライフルなどの「手持ち兵装」は、マニピュレーターやコネクタ類の規格さえ適合すれば通常は使用可能である。ミサイル・ボルト・ホトをはじめとする手持ち式以外の兵装も、セク・アイン用を

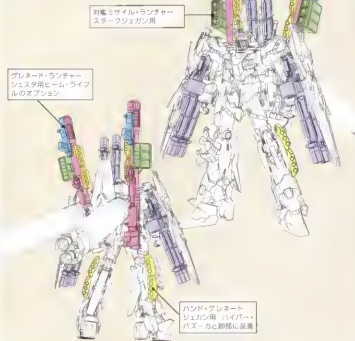
装備したガンダム Mk-V のように、調整によって適合させられる。なお、SFS「サフ・フライト・システム」や大気圏再突入用のバリュート・システムといったMS用オプションは、特殊な例を除いて異機種間での共用を想定した汎用装備となっていて、これは生産性の向上とコストの低下を狙ったものと思われる。



内蔵式兵装の転用には機動兵器側の兵装実装、または双方の大型機構改造を必要とするが、手持ち式を含む外蔵式はそうした制約が少なく

RX-0 フルアーマー・ユニコーンガンダム

ビーム・マグナムとハイパー・バズーカ以外、他機種用兵装を追加装備した現地改造仕様。すべての火器をリモートでコントロール可能で、多目標同時攻撃にも対応する。これは、思考情報を機体制御に直接的に反映するインテンション・オートマッチングシステムによるものである。兵装ではないが、大型ブースターは94式ベース・ジャパーから転用された。



AMX-101K ガルスK



AMX-101E シェツルム・ガルス



手持ち兵装の転用

異機種間の兵装の転用・適用例は、MSの手持ち式で顕著である。サク用として開発されたザク・マシンガンやクワナムなどでも使用されたのは代表的事例といえる。これは一般的なMSの五本指マニピュレーターの特性によるもので、共通マニピュレーターの採用で互換性が高まった



機体統合計画案1の「マニピュレーター」は共通規格のため、兵装の統一運用も可能であった



第二期MSはマニピュレーターも小型化したため、第五世代MS以前の機体にも用いられた手持ち兵装は転用にいく

■同系列機内での転用

同系列組織に属するMSは、異機種でもマニピュレーターなどの共通性が高く、手持ち兵装の互換性も優れる。キラターカ用ビーム・マシンガンや装備したゲルググ(袖付き)のように20年近くの時代表でも装備した例がある



トムやリノクドムはサク・マシンガンの装備例があるが、クリップを確保する必要があったともいわれる



エカン用ビーム・ライフルを2丁装備したリゼル・ジェガンとリゼルは部品を共用化しており互換性が高い

■異組織間での転用

運用組織が異なる場合でも、兵装の転用が可能である。複数の軍事組織に機動兵器を提供したAE(アナハイム・エレクトロニクス)社のMSで顕著だが、ゲルググ用ビーム・ナキタタを使用しギブラリンのような例もあった



Vガンダム用の5連装カトリン・ガン装備したリゼル・ジェガン(反動が大きく安定しないため狭い範囲で発射)



キラターカのビーム・マシンガンを撃つガンダム。搭載MSの開発企業が同じこともあり問題なく使用できる



イラストレーター：村田幸雄

互換性重視のMS群

MSのなかには開発段階から他機種と共通性を強要した機体群がある。多くの場合、低コスト化を目的とし、堅固性や互換性の向上も期待でき、パーツの共用化というコンセプト上、各MSの性能特性が似通ったように思えるが、機体用途用領域など異なる要素も明確に差別化されている。

■統合整備計画

MSの規格統一による生産性の向上を目指した統合整備計画では、最終的にケルククの生産ラインで主要なMSを製造できるよう試みられた。このなかで既存のMSは、統合整備計画に準拠して「第二期生産型」として再設計され、性能の底上げもなされた。



ケルククのような統合整備計画に準拠した新型MSも開発され、戦闘能力は高水準なものになった。



MS-14A
ゲルボ

MS-06F2
ザクⅡ改

MS-09R
ザクⅡ改

■地球連邦軍の量産型MS

宇宙用主力可変MSリゼルと大気圏内用主力可変MSアングンは、可変MS特有の高コスト化を軽減するため、主力MSリゼルとのパーツの共用化が図られた。



「リアクト」と「リゼル」の外見が酷似した機体は、可変機は、当然ながら「リゼル」や「アングン」装備の共用率が高い。



RGM-89C
ジョゴンDMS

RGM-96
アングン

RGM-95
リゼル

■地球連邦軍の第二期MS

これにU120前後から配備された量産仕様の連邦軍第二期MSは、地上用のジェムスカーンと宇宙用のマハーリオン、エネレーターや各部パーツを共用化していた。



RGM-119
シェムズガン

RGM-117
シェムズガン

MORE INFO

旧型機と後継機の互換性

MSのロータリ化にともなって戦力化される新型後継機は、旧型の前身機との互換性を確保することがある。ジムの後継となったRGM-79Cジム改のような直接改修機は当然だが、開発段階が異なる場合にも見受けられる。これは配備が開始されたばかりの新型機にみられる。堅固性や稼働率の問題を練った措置と考えていいだろう。



RGM-179 ジム改の後継機 RMS-154 バーザムも、前身機を含む旧型機と互換性を持つといわれる。

RMS-106 ハイザック

U.C.0084完成の連邦軍量産主力MS。全天周モニター・リアード・シー式コクピットを採用した。



RMS-108 マラサイ

クリプス戦役時、AE社がティターンズに提供したMS。兵器や腕部などでハイザックと互換性を持つ。



〈インダストリアル7〉と〈メガラニカ〉

ラグランジュポイント1の新サイド4宙域に建設されたスペースコロニー〈インダストリアル7〉とそれに付随する〈メガラニカ〉は、U.C.0096の「ラプラス事変」の始まりの地であり、また終焉の地ともなった。



L1に建設された 私有工業コロニー

地球と月の間に位置するL1の新サイト1市域に建設された、AE（アナハイム・エレクトロニクス）社の私有工業コロニーが「インダストリアル7」である。U.C.0096時点で建造途上であり、トキンギス海兵の反対側には「ロクロ」と通称されるコロニー造成ユニットが、さらにその先端には「カタツムリ」とコロニービルダー「メガラニカ」が接合されていた。「メガラニカ」は、AE社の急速な発展に助力したヒスト財団の支配下に置かれ、その根拠地ともなっていた。

当時の新サイト4は「コロニー再生計画」においても組織的な再建がなされなかったようにある。結果、「インダストリアル7」はどのサイトにも属さず、独断専断の発達はおろか、自治体としても扱われない孤立コロニーといえる状態にあった。地球連邦軍の駐留部隊すら不在。それでもU.C.0096.04の時点で200万人の人口を有し、その半分がAE社の社員とその家族、残りは関連企業やトクジ会社の社員が占めていた。無関係なのは政府の用兵所に占める役人、警官、消防署員程度だったといわれる。

(インダストリアル7)の地勢

「インダストリアル7」は、ルウム戦役で壊滅した旧サイト5・新サイト4市域の郊外に建設された。いわゆる「砂漠宙域」に位置するが、周囲のスペースステーションの密度は比較的低く、アクセスの悪い、大きな問題はない。周辺にはほかのコロニーはみられず孤立状態にある。



L1の共通軌道上を周回。フランス軍、の最終局面で分離したメカラニカはL1から離脱し、サイト3宙域に移動、潜伏することになる。

(インダストリアル7)の立地

上でも解説したとおり(インダストリアル7)は、L1の旧サイト5宙域郊外に置かれていた。本国では省略しているが、砂漠宙域も近傍に広がり、またネオ・ジオン残党軍「袖付き」の拠点である資源衛星(パライオ)からも近かった。



コロニー近傍の宙域では、アナハイム工場の運営なども行われていた。

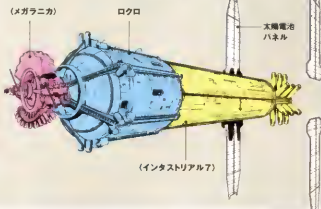
接合状況

U.C.0096時の「インダストリアル7」はその先端に、コロニー造成ユニット「ロクロ」とコロニービルダー「メガラニカ」を接合した状態にあった。これは住民の生活とコロニーの建設を両立させるための処置で、完成した部分から順次、居住・工業区画を拡大できる利点がある。



常態型の鳥3号型コロニーの先端に、コロニー建設用の巨大ユニット2基が接合された状態。この2基はコロニー完成後には取り外される。

(インダストリアル7)と(メガラニカ)の位置関係



(インダストリアル7)

箱型の密閉型という珍しい形態のコロニー。密閉型の特性により、利用可能な内部面積が極めて広いうえ、建設と居住を両立しやすい。

(ロクロ)と(メガラニカ)

(インダストリアル7)にキャブ状に接続された、コロニー建設用の巨大ユニット。建設用資源は「メガラニカ」に連結されている。

LOCATION INFO

ラプラス事変と(インダストリアル7)

U.C.0096.04.07、連邦政府を転覆させかねない極密を封じた「ラプラスの箱」をめぐる争乱、ラプラス事変が勃発した。箱の取引場所だったことから、その始点となったのが(インダストリアル7)と(メガラニカ)であり、およそ1ヶ月後には最終決戦の舞台ともなった。

I ラプラス事変・勃発

U.C.0096.04.第1の「箱」の取引が行われる予定だった(メガラニカ)を連邦軍が奇襲。この際、袖付きと戦艦状態となり(インダストリアル7)にも被害が出た。



II 箱を通る決戦

U.C.0096.06.第2の「メガラニカ」に転送されていることが判明。ロンド・ヘル・エコース、袖付きの3機が連合し、「袖付き」主流派と交戦状態となった。



III 箱の開放と(メガラニカ)出航

箱の流出を恐れた連邦政府上層部の命令により、コロニーレーザーで(メガラニカ)を攻撃するもサイコフィールドで阻止される直後、箱の情報が世界中に開示された。



■〈インダストリアル7〉

AE（アナハイム・エレクトロニクス）社の私有工業コロニー。密閉型コロニーだが、サイド3に多い開放型コロニーの直接改修型ではなく、新規に建設されたこと、ミラーを持たないため「ロクロ」のみで建造可能なことなどが密閉型とされた理由であろう。



「ラプラス事変」勃発時の全長は18〜20kmほどで、最終的には30kmまで伸張される予定。事変後の船体は不明だ。

■市街地・工業地区・商業地区・繁華街

工業コロニーの特性上、多くのブルーカラーを抱える〈インダストリアル7〉には一般生活に对应した地区も広がっている。住宅地区が広がる市街地、生活に必要な商業地区や繁華街などである。宇宙港の周辺に工業地区、中央付近に住宅地が密集している。



一般的な集合住宅街。傾斜型のマンションはコロニーでよくみられる。商店は地下に存在。



U.C.0096時の「ロクロ」近後に位置した繁華街。映画館や飲食店などが軒を並べる。

■内部全景

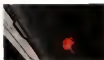
密閉型コロニーの特性上、〈インダストリアル7〉は内壁のほぼ全体に幅3.2km、奥行1.6kmの地盤ブロックが敷き詰められており、居住区や工業地区などを広くとることができた（内壁の真径は一般のコロニーと同じ約6km）。宇宙港に向かう傾斜地はいわゆる「お椀」型で、リフトや地下鉄によって宇宙港と「陸」をつないでいる。



コロニーに封じて「割め」の車道は、コロリリを考慮して稼働する。



橋は、いわゆる「河」=防災策ではなく水の河川にかかっている。



内壁と外壁は十分な強度を持つが、融合部の破壊には耐えられない。

■交通機関

コロニー外とのアクセスは、コロニーシリンダー末端のドッキング・ベイ（宇宙港）を介して行う。一般的なコロニーと異なるのは、ドッキング・ベイから放射状に設置された貨物船、資材投入口である。コロニー内の長距離移動には、一般的にエレカやリニア式の地下鉄を用いる。地下鉄のリニアールは、空気抵抗をなくするためコロニーの外壁に設置された。



地下鉄は外壁設置の路線を走る。2〜4シーターの公共エレカは乗客で可動だ。

コロニーの中心線上を貫通する長大な照明装置 インタストリアル7 の構造上 日光をとりこめなため 昼夜の再現や気品操作は人工太陽に依存する 宇宙港側の基部は4層重力倉庫 コロニー内を一望可能な労働者用食堂などが位置する



点灯で潮や星を、満灯で夜を再現。雨などの気象は再現できない。

「コローニ」外に4基が設置され巨大な太陽電池パネルは物理的に連結されており、浮いた状態であり、送電は「コローニ」で行われるように「コローニ」に近いため太陽との位置関係により影がさず、また裏面が発電パネルであるため問題は無い。



全長約7km以上で4基すべし、が同
し形状。ラブラス事変、勃発時に
コロニーが半ば倒立したため、パ
ールの高度は調整された。

AE社が設立したフルカラー養成所、1993年
専門学校卒業生はAE社や関連企業の工
員として就職できるため、人気があるようだ。1カ
ラプラス教室、熊本県、ロートヘルメス、福
付きのコロニー内戦闘、巻き込まれ、少な
かぬ教員と生徒が死亡、校舎も破壊する事象
なま



カプセルのコーン内突入によって破損が発生。検査に落下したMSが破壊。濃煙し、大きな被害を出している。

■(メガラニカ)と周辺施設

〈インダストリアル7〉の建設を担った(メガラニカ)と「ロクロ」は明確に役割が異なっており、前者は地盤ブロックの製造、後者はその組立てという形で分業された。(メガラニカ)はビスト財団の機軸地、木星開拓の宇宙シップの機能も有しており、こちらが本質的な姿といえた。



〈メガラニカ〉は全長6,500mの超巨大艦。4基の大型マッドライバーを備え、岩地の下には36基もの巨大な武装ボッドを搭載している。

■コマンド・モジュール

(メガラニカ)の司令部区画。巨大航空艦艇としての(メガラニカ)のブリックまたは中央作戦室の機能を有する。

木星資源輸送船クラスの巨大な船体を使用するためには多数の乗員が必要になるため、コマンド・モジュールも巨大である。情報収集・分析能力にも優れた区画であるため、RX-0 ユニコンガンダムの試験ではモニタリングにも使用された。



通常の艦橋と異なり船内に位置するため、天井は全周モニター液面中央の面台に艦長席

■格納デッキ

〈インダストリアル7〉と比べれば小型の(メガラニカ)だが、航空艦艇としては史上最大級の規模を誇っており、内部はあわめて巨大である。船体各部の格納デッキも例に漏れず、MSに対応した通達とハンカーを兼ねるサイズだった。なお、ユニコンガンダムは専用ケージと共に別の区画に格納された。



■ビスト邸

ビスト財団を支配するビスト家の邸宅であり、ビスト財団の本部。地球の歴史的邸宅を移築したものであり、周囲には庭園も設けられた。(メガラニカ)内部の回転居住区(直径約1,600m、幅260m)に置かれており「氷家」への入り口でもあった。幼少期のバナーにも暮らししていた。



タペストリー「貴婦人とユニコン(La Dame à la Licorne)」のオリジナルは額内に掲げられていた。



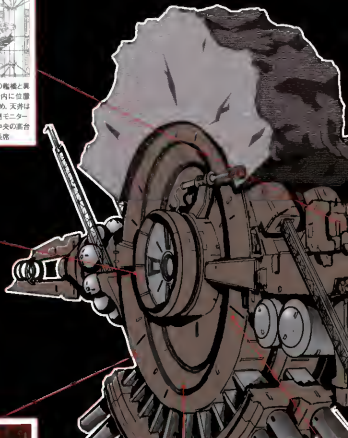
ビスト邸が位置する居住区画の壁面は、空の様子を投影。景観は〈インダストリアル7〉と同調する。

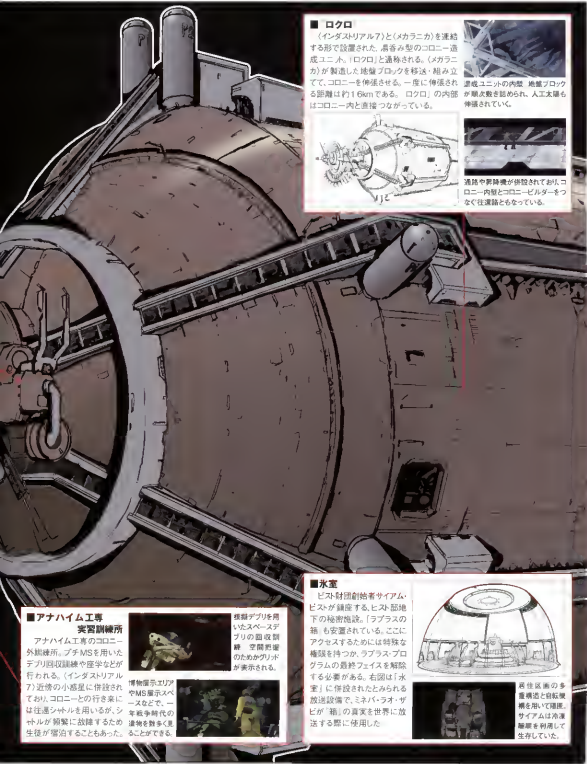
■居住区画エレベーター

〈メガラニカ〉居住区画の壁面に沿うように設けられた巨大エレベーター。人間用ハッチのほか、MSの移送にも対応する30mクラスの扉を有する。大型資材・機体の搬入・搬出に用いられるようだ。〈ラプラス事変〉終盤のネオ・ジオンは居住区画の外壁を破壊し、強引に侵入した。



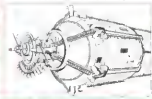
ネオ・ジオンの左右に見えるシャフトがエレベーター。壁面に併設されているのが見て取れる。





■ ロクロ

〈インダストリアル7〉と〈メカランカ〉を連結する形で設置された、扇形型のコロニー造成ユニット。「ロクロ」と通称される。〈メカランカ〉が製造した地盤ブロックを移送・組み立てて、コロニーを伸展させる。一度に伸展される距離は約16kmである。ロクロの内部はコロニー内と直接つながっている。



造成ユニットの内装。地盤ブロックが順次敷き詰められ、人工太陽も伸展されていく。



道路や昇降機が併設されており、コロニー内装とコロニービルダーをつなぐ往還路ともなっている。

■ アナハイム工専

実習訓練所

アナハイム工専のコロニー外訓練所。プラチMSを用いたデブリ回収訓練や座学などが行われる。〈インダストリアル7〉近傍の小惑星に併設されており、コロニーとの行き来には往還シャトルを用いるが、シャトルが頻繁に故障するため生徒が滞泊することもある。



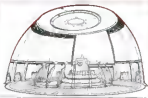
博物館エリアやMS展示スペースなどで、一年戦争時代の遺物を数多く見ることができる。



模擬デブリを用いたスペースデブリの回収訓練。空間制御のためがグリッドが表示される。

■ 水室

ビスト財団創始者サイアム・ビストが鎮座する、ヒスト郡地下の秘密施設。「ラブラスの箱」も安置されている。ここにアクセスするためには特殊な機密を持つが、ラブラス・プログラムの最終フェイズを解除する必要がある。右図は「水室」に併設されたとみられる放送設備で、ミネバ・ラオ・ザビが「箱」の真実を世界に放送する際に使用した。



居住区画の多重構造と回転機構を用いて隠匿。サイアムは冷凍睡眠を利用して生存していた。

GUNPLA Generation

ガンブラ ジェネレーション

vol.34 RX-0 フルアーマー

ユニコーンガンダム

シールド以外の追加装甲がないゆえフルアーマーというよりはフルアーマメント（総武装）と解釈すべき機体。しかしその見た目の迫力は、ガンブラという立体物として眺めただけには別格クラスだ。

廉価版はやはり1/144 HGUCの2形態

フルアーマーユニコーンガンダムはユニコーンモードからデストロイモードへの“変身”を阻害しない武装配置が考慮されているため、1/144 ハイグレードユニバーサルセンチュリーHGUCのデストロイモード（2014年4月発売 価格3,200円・税別）は、先に発売されていたHGUC ユニコーンモード（2013年5月発売 価格3,000円・税別）に追加パーツと台座を追加したバリエーションキットだった。

ちなみにHGUC デストロイモードのサイコフレームは常設状態のクリアグリーンにて成型されており、右で紹介するHGUC デストロイモード レッドカラーVer.（サイコフレームをクリアレッドの成型色で再現）との差別化が図られている。この機体の製品化に対する熱量の高さが窺えよう。

ベースキットとなったのはいうまでもなく、HGUC ユニコーンガンダムのユニコーンモードである。

デストロイモードのシールドは専用ベースにて展示可能で、三連ディフェンス状態が再現可能。

これ以上、何かを望んだら罰が当たる！
すでに「正解」が導き出された超絶作品

そもそもフルアーマー・ユニコーンガンダムのガンブラ化は、1/100 マスターグレードモデル＝MG Ver.Ka 小説版のバージョンアップ版キットとしてスタートした（2011年12月発売 価格8,000円・税別）。元々が94式ベース・ジャパーのスラスタを転用している背部大型スラスタは、オプションパーツを使用し94式ベース・ジャパー形態とすることでユニコーンガンダムを搭乗させることも可能。また、ハイパービーム・ジャベリン

MG Ver.Ka 製品化の時点で、すでに立体的正解は出切っていたといっても過言ではない。

は、本キットのためにデザインされたという事実も覚えておきたいところだ。

そして、1/144 HGUCのバリエーションキットとして、テレビ版「RE:0096」に登場するデストロイモード/レッドカラーVer.が発売になる（2016年6月発売 価格3,400円・税別）。カキハジメ氏デザインの新規マーキングや色分け再現用水シルシが付属するなど、これも非常に興味深い仕様といえよう。

HGUC デストロイモード/レッドカラーVer.は、唯一サイコフレームがクリアレッドである点が魅力だ。

この状態で眺めると自然とした雰囲気を感じ出す。「変身」前のRG ユニコーンモード。

ちなみにもうこれでも十分に「お断りっぱい」な感があるが、2018年12月、最後の決め打ち的な製品がリリースされる。1/144 リアルグレードモデル＝RGだ（価格4,860円・税別）。同じ1/144のHGUCでも相当な密度感であったが、MSの「リアル」を身体感するために生み出された表現方法を採用。RGならではのアドヴァンストMSジョイントには、全装備を装着したままユニコーンモードからデストロイモードへの“変身”を可能とさせるリンク機能やロック機構が採用されている。もちろん全装備を装着した形状（シルエット）はHGUCのそれとはほぼ同様なわけだが、RG用に再設計した各パーツの精度がもうワンステップ分高まったため、完成後のモデルが顔出しすべしという「1/144スケールでここまで表現が可能な時代に至ったのか……」とよい意味で溜め息が漏れてしまうほどだ。

また、塗装では容易に再現することができない金属の輝きを表現するリアリストックカラーが付属するなど、「近作におけるRGスタンダード」といってしまえばそれまでだが、RGというグレードの「やることはすべてやり尽くす」という完璧主義的なスタイルが容易に見て取れるスペシャルなガンブラのひとつと表現することができる。

RGをデストロイモードに“変身”させ、四肢を展開した戦闘ポーズをとらせると、雰囲気ガッラッと一定する。

NEXT MS

次号予告

お知らせ

諸般の事情により「ガンダム・モビルスーツ・バイブル」はしばらくの間、隔週刊での発売にさせていただきます。次号、第35号の発売は2020年1月21日(火)です。

ガンキャノン

地球連邦軍が開発したRXシリーズのうち後方からの中距離砲撃戦に対応したMS。MSのカテゴリに「支援砲撃機」を確立させた。

お買い得らしく安心! 毎号付をメールでお知らせします! (※要申し込み)

発売日お知らせメール

<https://deagostini.jp/oshrase/gms/>

- 戦場レポート
セイラ、出撃!
- MS機体解析
機体解説 / 武装解説
- 随伴MSラインナップ
ガンキャノンと関連機体
- MSパイロット
カイ・シデンと周辺人物
- MS戦記
ガンキャノン 戦歴の記録
- MS進化論
ガンキャノン 開発系図

- メカニック・ジャーナル
RX計画とV作戦
支援砲撃用MS
一年戦争期の世界(中東)
- ガンブラ ジェネレーション
劇中で有名になった
砲撃シーンも再現可能

第35号

1月21日(火)発売

定価: 本体 639 円 + 税

※地域によって発売日が異なる場合があります。
※マガジンの内容が変更となる場合があります。

重厚な装甲と優れた火力を両立させた支援用MSの能力を徹底検証!

ガンダムMSバイブル
専用マガジンケース
好評発売中!!

通常価格

1,230 円

(税別)

定期購読とあわせてのご注文で送料無料!

※マガジンケース1冊に定期的10号分を収納できます。
※何冊でもご購入いただけます。

知照に便利な
ステッカー
付き!



好評
発売中

バック
ナンバー
ご案内



29 ジオン



30 ZZガンダム



31 ガンダム試作3号機
デンドロビウム



32 タブルオーライザー



33 ギャン